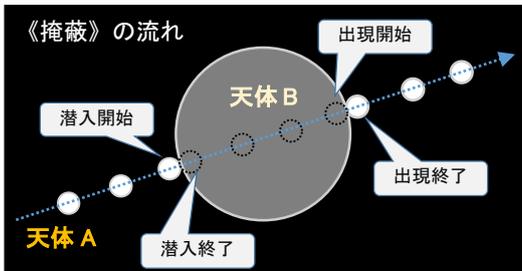


★ 天体のかくれんぼ？ (食と掩蔽)

【知って楽しい！
天文の基礎知識(4)】

前号で、月が「さそり座」の♄星ジュバを隠す現象について紹介しましたが、このように「ある天体(A)が、別の天体(B)の作る影に入ったり、天体(B)の後ろに隠れたりして、その一部又は全部が見えなくなる現象」は、まるで歯でかじったように欠けて見えるので《食》と呼ばれています。現在では、別の天体の影による場合を《食》、別の天体の後ろに隠される場合を《掩蔽》と区別することもあります。昔は欠ける理由によらず《食》と呼んでいました。例えば、月が地球の影に入る《月食》は《食》ですが、太陽が月の後ろに隠れる《日食》は、現在の区分では厳密には《掩蔽》になります。

この《食》の観測をするなら、地球に最も近い天体「月」による《掩蔽》のケースがオススメです。月は、地球の周りを公転する間に、星や惑星などさまざまな天体の前を通り過ぎ、それらの天体を隠すからです。度々見られる現象なので、前号で紹介したとおり、月による《食》を《星食》と呼び、恒星を隠す場合を《恒星食》、惑星を隠す場合を《惑星食》と呼びますが、《惑星食》では、どの惑星が隠れるかによって、その惑星の名に置き換えて呼ぶこともあります。ちょうど良く7月22日の夜半には、火星が月に隠れる「火星食」があります。地球の兄弟星「火星」が、月で「かくれんぼ」する様子を観察してみましょう。



天体の《掩蔽》の観測では、天体の後ろに隠れていく《没入》と、再び出てくる《出現》のタイミングが見どころです。ただし、起こる時間帯や、隠れる天体の明るさ、月の満ち欠け、特に《星食》の場合は起こる場所が月の明るい側か暗い側かなどによって、観測の難易度は大きく変わります。《恒星食》の場合は、隠れる恒星が月に比べると小さな点にしか見えないので《没入》と《出現》

は一瞬で終わりますが、《惑星食》では、地球から見る惑星には見かけの大きさがあるため、《没入》と《出現》にはある程度の時間(今回の火星食では20秒程度)がかかり、徐々に隠れ、徐々に現れます。

★ 火星食を観察しよう！

残念ながら、豊川市周辺では月の出が21日の深夜11時49分頃で、火星はすでに月の後ろに隠れており、《没入》の様子は見ることはできませんが、出現開始が22日0時15分の少し前頃なので、《出現》の様子は観察できそうです。ただし、空の低い位置で起こるため、地平線近くに障害物がない場所で、双眼鏡などを使って観察する方がよいでしょう。



★ うおついぼし(魚釣り星) 【星の和名のお話】

前々回、「さそり座」が「魚釣り星」という和名で呼ばれると紹介しましたが、少し説明が簡単過ぎたので、今回は、もう少し詳しく説明しましょう。右の図の、さそり座の背中から尻尾にかけての形に注目してください。日本の瀬戸内地方では、この形から魚を釣る釣り針に見立て、「魚釣り星」や「漁星」と呼んだり、鯛が多く釣れる時期に見えるので「鯛釣り星」とも呼んだりしたそうです。奄美の喜界島でも「フスクーバイ(フスクーという魚を釣る針)」と、沖縄の那覇地方でも「イユチャーブシ(魚釣り星)」と、同じような意味での星名が伝えられています。



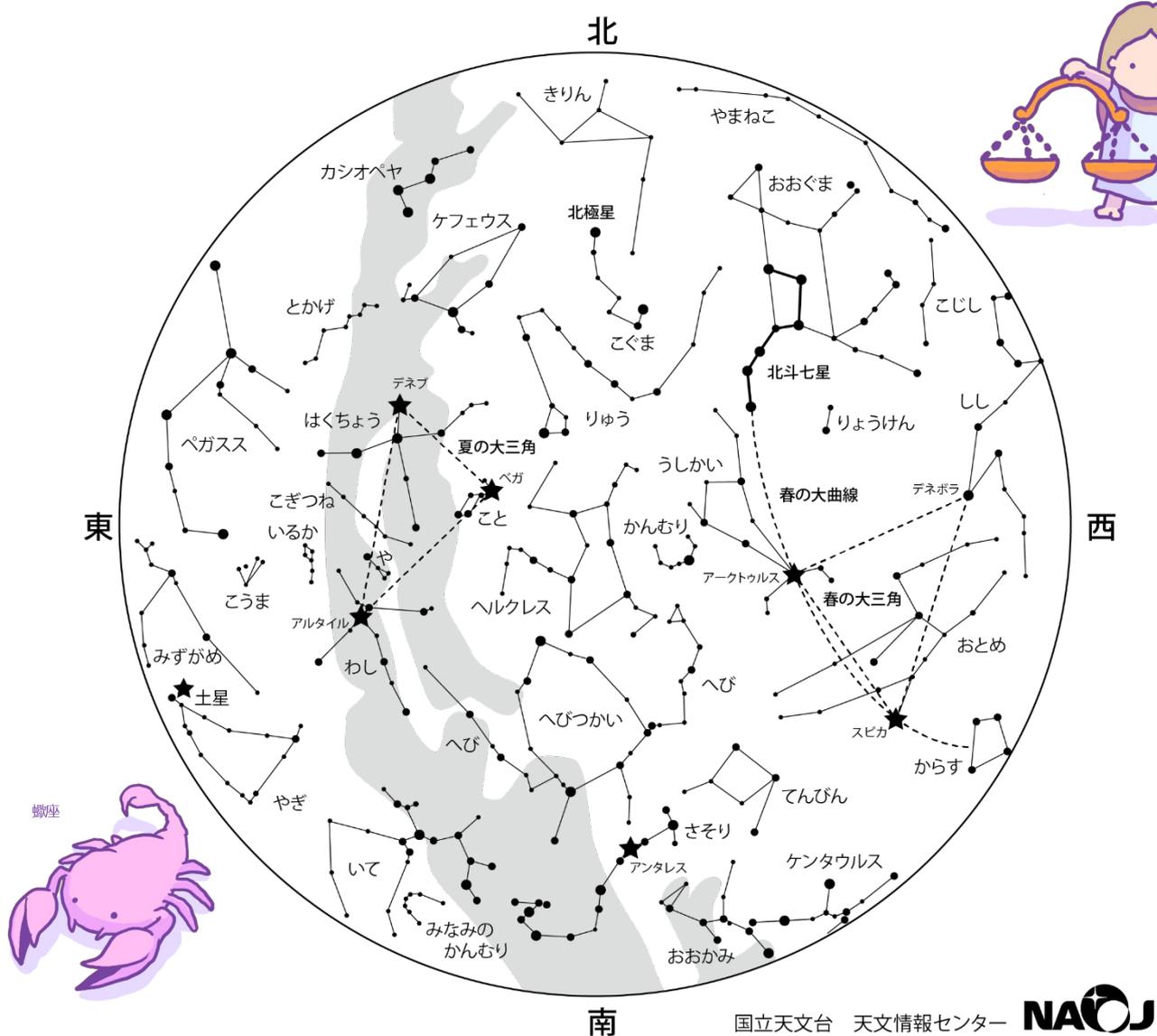
図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 7月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 7/19(火)、20(水)、25(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

7月下旬午後8時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 7月下旬の主な天文現象

19日(火) 未明に月と木星が並ぶ	23日(土) 大暑
20日(水) 下弦	27日(水) 明け方、細い月と金星が接近
21日(木)～22日(金) 火星食 (真夜中過ぎに月から火星が出現)	29日(金) 新月
	30日(土) みずがめ座 δ 南流星群極大

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ7/15～31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 7月16日(土) [見やすさ ◎]	3:29 西北西	～	3:36 南南東
◇ 7月16日(土) [見やすさ ○]	20:10 西	～	20:15 北北東
◇ 7月30日(土) [見やすさ ○]	20:13 北北西	～	20:17 東北東
◇ 7月31日(日) [見やすさ ○]	21:01 北西	～	21:04 西

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。